

## 10代の若者の秘密基地富士見の“マルイチユースセンター”プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

富士見町に在住又は通学する10代の子ども・若者は約1100人、家・学校や塾が生活の中心で、勉強や部活動で活躍できない子供たちは自己肯定感が低くなりがちである。富士見町第6次総合計画では中高生の居場所の設置を目標としているところ、こどもの未来をかんがえる会は令和5年度より中高生へのワークショップ等を通じたニーズ調査を実施。富士見駅前商店街の「福寿屋」奥の旧マルイチ食品センター跡地を改装し「ユースセンターまるいち」を立ち上げる。自分らしく過ごすことができる居場所とし、気軽に悩みが相談でき、多様な大人と出会うことを通じて、自己理解を進め、自己発見を促す場所となることを目的としている。

### 事業内容

#### ○ ユースセンターワークショップの開催と居場所のデザイン・活動計画策定

6月から8月にかけて中高生とともにユースセンターのレイアウトを考えるワークショップを実施。参加した中高生それぞれの視点や思いが反映された、ユニークなアイデアを生かして居場所のデザイン・活動計画を策定。

#### ○ ユースセンターの改装、備品の設置 —マルイチ復活プロジェクト—

マルイチ食品センターの跡地に断熱改修、壁の内装工事等を実施。その際「マルイチ復活プロジェクト」として、中高生、大学生、富士見町商工会の参画も得ながらDIY方式で内装の塗装を実施。

#### ○ ユースセンターオープン、ユース創作ラボの設置、運営協力体制づくり

10月より「ユースセンターまるいち」としてオープン。2人のユースワーカーを配置し、週3回中高生に居場所として開放。子ども・若者の創造力を育む「ユース創作ラボ」の機能を設置。諏訪東京理科大生主催の百人一首大会やメイクアップイベント等普段会えないヒト・コトとの出会いの場を提供。富士見町、富士見町商工会、富士見駅前の商店街関係者、富士見町社会福祉協議会との連携体制を構築。



【DIYでの改装】



【百人一首大会】

### 事業効果

- ・ 中高生利用登録者 67 名、のべ利用者数：318 名（内訳：中学生 182 名、高校生 136 名）開所日 57 回（2024 年 10 月～2025 年 3 月）
- ・ 関与いただいた主な団体・個人 大学生・若者層（延べ 74 人）企業関係者（計 19 社）
- ・ 利用回数の多い中高生を対象としたアンケート結果。  
来所理由：「自分らしくいられる」「好きなことができる」「自分の考えが言える」  
ユースセンターに来るようになって変わったこと：「自分のことを話せるようになった」「好きなことが見つかった」  
⇒ユースセンターの利用が、中高生の自己理解や自己肯定感向上に一定程度寄与

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ 事業の計画、実施段階に中高生、大学生や地域の人たちの参加を促し、段階的に事業を構築。
- ・ 富士見町外の学校に進学した中高生、富士見町外から出た若者へのアプローチも必要。
- ・ コミュニティスペースとしての活用等を通じた継続的な運営費の確保。

#### 【選定のポイント】

センターの立ち上げ準備としてから中高生と地域の大人の参画を得て改装等を行い、オープン以降もリピーターの増加が見られることから、中高生の自己理解や自己肯定感のきっかけにつながる地域の交流の場の創出として期待される。

団体名 NPO 法人こどもの未来をかんがえる会  
連絡先:0266-78-7048  
ホームページ:https://hikosen.jp  
メールアドレス:fujimi.yc@gmail.com

事業タイプ ソフト事業・ハード事業  
事業費 3,666,800円  
支援金額 2,779,000円

## ホタルの里の環境保全とホタル祭りの開催で中山間地の活性化事業

### 取組に至る背景・事業の目的

地域でホタルが飛び交う情景を守っていくためにホタルの自然繁殖における環境活動を行っており、辰野町協力の下、講習会を開催し、適切な環境整備方法を学び今後の活動に活かしていく。

また、地域での取り組みをより多くの地域住民に知ってもらうためにホタル祭りを開催し龍江地区のホタルのPRにつなげる。

### 事業内容

- ①ホタルの生息環境保全に関する知識の習得と管理活動の実践
  - ・運営役員4名で辰野町ホタル童謡公園を見学。辰野町職員の案内の下環境整備活動についての説明を受ける
  - ・荒神山ホタルラボでホタルの飼育や生態、繁殖活動について学習。
  - ・辰野町の堀内講師をお招きし、龍江4区公民館にて講習会を開催。そのあと環境整備活動を実施
- ②ホタル祭りスタッフの拡充及び備品の充実
  - ・ホタル祭りスタッフ募集チラシを丘の上結いスクエア等に配布。
  - ・臨時トイレの設置や照明、広報看板の設置を行った。



【ホタル祭りの様子】

- ③ホタル観賞場所と祭り会場の安全対策強化
  - ・6月初旬に鋼管杭およびトラロープにより転落防止措置を実施。危険箇所をバリケードにより封鎖をした。祭り当日の会場にLED照明を設置し安全を確保した

### 事業効果

- ①ホタルの生息環境や保全活動の知識習得と実践
 

勉強会でホタルの生息実態が幅広い年代層の関係者に理解された環境保全に関する方法や時期を周知し、実践できた。
- ②来訪者の増加にともなうホタル祭りスタッフの対応と備品及び設備の充実
 

ホタル祭りが地区外のスタッフ10名参加で地区民併せて90名体制の運営成功。備品の確保による準備作業の効率化達成。
- ③ホタル観賞場所及び祭りの安全環境対策と駐車場対応
 

安全対策備品の充実により、堅固な安全柵設置と祭り会場の照度確保  
トイレの増設、駐車場へのシャトルバス運行による来訪者の安全確保
- ④広報活動によるホタルの里の魅力発信とリピート集客への対応
 

昨年度比：30%増の来客  
伊那谷宿泊客の大型バス13台によるホタル観賞  
半数以上の新規来訪者有り

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ◎ 本年度事業については、計画された内容が実行成果を上げたが、次年度以降の活動においては、地区の少子高齢化が顕著であり、事業運営についても、地域づくり委員会以外に、幅広く運営参加を依頼する。引き続き、他地区への協力依頼を続けスタッフの確保をしていく。
- ◎ 本年度の環境保管理状況を次年度検証し、ホタルの自然繁殖の継続を進める。
- ◎ 狭隘な箇所での祭り開催であり、来客の安全第一を主眼に管理体制を確立する。
- ◎ 隣接するキャンプサイト利用者にも周知を図る。

### 【選定のポイント】

若者が企画・運営に関わることで、地域行事への愛着や責任感が生まれ、将来的な地域づくりの中心的存在となることが期待される。また、同世代の参加者や来場者を呼び込む力にもなり、祭りの魅力や広がりを増す。

**【選定のポイント】**

人工的な養殖ではなく、自然の川や草地を整備・保全することで、ホタルが本来の生息環境で命をつなぐことができ、地域の自然資源としての価値が向上。また、住民の環境意識の向上や、観賞体験の感動が深まり、教育・観光・地域づくりの面でも波及効果が期待される。

団体名 龍江4区地域づくり委員会	事業タイプ ソフト・ハード
連絡先 090-4663-0849	事業費 2,027,374円
HP : <a href="https://tatue.jp/system/">https://tatue.jp/system/</a>	支援金額 1,164,000円

## 王滝村・長野県立大学包括連携事業「ひろがれ！推し村プロジェクト」

### 取組に至る背景・事業の目的

王滝村の令和6年1月1日現在の人口は657人である。若年層の人口割合が少なく、地域行事の担い手不足、行事参加者の減少が課題となっており、地域活動の維持が困難になりつつある。人口減少は地域活動の維持を困難にするだけでなく、村の伝統の継承をも困難にさせている。これら村における課題に若い視点で取り組むため、令和4年5月に長野県立大学と包括連携協定を結び、令和5年度は延べ40人ほどの学生が来村した。

本プロジェクトは令和6年度で3年目にあたる。コロナ禍であったものの王滝村を知ることができた1年目、村のイベントにも参加し、手探りながらも学生独自の企画を行った2年目に続き、3年目においては単なる来訪者からある種の「役」を担うような、村にとって必要不可欠な人材としての活動を行うような展開を目指した。

前述のとおり若い世代の少ない当村においては、村外の大学生らが継続的に滞在し、観光地の訪問や地域活動への参加を通して「地域住民とは異なる若い世代の視点で魅力を発見すること」、「その魅力をSNS等により地域外に発信し観光誘客を図ること」が求められる。

また、訪日外国人旅行者（インバウンド）の急速な回復を受け、地域一体で付加価値の高い新たな地産地消メニュー・食体験コンテンツ等の造成も必要である。

### 事業内容

王滝村と包括連携協定を結んでいる長野県立大学の学生が来村し、交流イベントの運営や郷土食の観光資源化に取り組んだ。

グローバルマネジメント学部の学生が、王滝村でやってみたいこと（「空き家DIY」・「アウトラインプロジェクト」等）を自ら企画・開催するとともに、運動会やお祭り等の村行事の企画・運営にも参加した。

また、健康発達学部の教授及び学生と連携し、料理教室や勉強会を開催し郷土食の重要性を村民に伝えていただくとともに、既存の郷土食を活かした新メニュー作りを行った。



【空き家DIY×デジタルデトックス】

### 事業効果

#### ① 新たな関係人口の創出

令和5年度の事業に参加したメンバーの一人が令和6年度も引き続き参加するとともに、事業メンバーではない県大生が自費で本プロジェクトに参加する等、想定以上の関係人口の増加につながった。

#### ② 地域住民の意識向上

学生が自ら考案した取組「アウトラインプロジェクト」では、学生1人ずつが王滝村に滞在して感じたことをインタビューを通じて文字に起こし、公民館祭り（来訪500人超）等で展示した。若い世代が感じたことを多くの住民に知っていただき、住民自身が地域について考える機会を作り出すことができた。

#### ③ 地域資源の活用

今回、完成した郷土食の新メニューを、村内の宿泊施設2軒にて実際に宿泊された方へ提供していただいた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

本プロジェクトは、今後も村の一般財源で継続実施していく予定。

さらに来年度については、食文化の継承をテーマとした新たなプロジェクトを立ち上げ、引き続き長野県立大学の教授・学生と連携した事業を拡大・展開していく。

#### 【選定のポイント】

観光誘客・交流人口拡大事業、学生独自のイベント企画・運営の活動の実施により、地域の活性化や人手不足に寄与した。事業メンバーでない学生が自費で参加していることやイベントの参加者増加から、交流人口・関係人口の拡大もできている。学生の活動が村民の刺激にもなり、食文化観光資源化事業の実施により村民の意識向上にも寄与している。

団体名	王滝村	事業タイプ	ソフト
連絡先	企画財政係（0264-48-2001）	事業費	1,559,962円
メールアドレス	kikaku@vill.nagano-otaki.lg.jp	支援金額	1,247,000円

## ナナイロアートプロジェクト事業

### 取組に至る背景・事業の目的

「障がい」を、人と人のあいだで起きる認識の違いや、社会に理解されないことから感じる「生きづらさ」であると捉え、社会にある「生きづらさ」を理解するためには、より多くの「障がい」に関する接点を社会に創ることが必要だという視点から、「※対話アート」を通して障がいのある人となんが交流する機会をつくることを目的として実施。

※「障がい」や「生きづらさ」をテーマにしたアート作品を街中に展示することで、お互いの理解やコミュニケーション（対話）を促進する場を創出するイベント



【対話アート広報・展示】

### 事業内容

- 障がいのある人によるアート展(2024年9月22日-2024年12月22日)  
期間中5市町、33カ所にて展示開催
- 障がいのある人のアートを常に体験できる展示を3カ月間常設
- デジタルアートインスタレーション
- 表現ワークショップ
- サポーターの育成プログラム
- 対話アートのレポートと支援者や企業の参画フリーペーパー作成
- 長野市、上田市、安曇野市、下諏訪町での  
対話アート WEEK を同時開催



【障がい者活躍ワークショップ】

### 事業効果

- ・アート展観覧者：総数約 276,531 人（目標：200,000 人）参加作家数：70 名以上
- ・展示作品総数：410 点 / ・キュレーター数：9 人 / ・サイドイベント：9 企画
- ・ボランティア参加者数：108 名（延べ人数）（目標：30 人）
- ・アートサポーター養成講座参加者数：22 名（延べ人数）
- ・対話アートを通じて、障がいのある人となんが交わる場を創出した。インクルーシブアートとして多様なアーティストが参加し、地域を超えた取り組み、企業による支援の理解が得やすい環境をつくる事ができた。アート・デジタルアート・音楽など多様な表現を取り入れ、障がいアートの枠を広げた。9 つのサイドイベントや高校との連携により、若い世代の関心を高め、地域の多様性や障がい支援への理解が深まった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・企業スポンサーの獲得により、対話アートを継続的に実施できるよう活動を行う。
- ・誰もが個性を發揮できるインクルーシブな社会をめざす。
- ・ボランティアメンバーの強化、人材育成などによる運営の安定化を目指す。
- ・令和7年10月～11月に「対話アート2025」を開催

#### 【選定のポイント】

- ・松本市内の枠を超えて、県内の他地域に波及した活動となった点や、活動の支援者・観覧者も段階的に増えたことにより、活動を通じて互いを理解する住みやすい地域づくりに寄与することが期待され、継続性・発展性の点も評価できる。

団体名	ナナイロ会議実行委員会	事業タイプ	ソフト
連絡先	070-5540-0583	事業費	3,926,110円
ホームページ	<a href="https://nanairo.design/">https://nanairo.design/</a>	支援金額	3,140,000円
メールアドレス	community@nanairo.design		

## 自然の中で五感と生きる力を育もう

### 取組に至る背景・事業の目的

様々な社会的背景により、現代の子どもたちは幼少期からインターネットによる遊びが中心となっている。一方で、観る、聴く、嗅ぐ、触る、味わうといった五感を使って遊ぶ経験が不足しており、発達障害や自然欠乏症という形で子どもたちの問題として現れていた。

また、地球環境の悪化により、急速な温暖化や異常気象に伴う災害が上伊那地域でも多発しているが、自分たちの暮らしへの影響を実感しにくい点もある。

そして、現代では単身家族が8割を占めるほど増えてきており、母親への子育ての負担が大きい。そこで、安心して子育てができるコミュニティを確立することで、「子育てが楽しく幸せなひとときである」と前向きになり、今後の出生率や少子高齢化の一助に寄与した。

### 事業内容

プログラムの参加者をはじめとした地域の人々との協働により、整備した森林を活動場所とし、馬耕による田んぼづくり、森での運動遊びや動植物の観察会等、地域資源を活かす多様なプログラムを実施した。

- ・ 4月6日 醤油仕込み (6家族、うち新規1家族)
- ・ 5月19日 田んぼづくり (20家族、うち新規5家族)
- ・ 5月31日 森の動物探検 (5家族、うち新規2家族)
- ・ 6月7日 森の運動遊び (3組 全て新規)
- ・ 8月25日 森の植物観察会 (8組、うち新規1組)
- ・ 9月15日 森の木工教室 (17組、うち新規5組)
- ・ 9月28日 稲刈り (9組、うち新規1組)
- ・ 11月17日 森の収穫音楽祭 (20組、うち新規2組)
- ・ 11月28日 森のアート教室 (7組、うち新規2組)
- ・ 12月7日 森の植物で草木染 (10組、うち新規3組)
- ・ 3月2日 命のおはなし会 (12組、うち新規5組)
- ・ 3月15日 醤油絞り (7組、新規なし)
- ・ 3月29日 味噌づくり (7組、うち新規1組) 【延べ131組、うち新規31組】



【田んぼづくり～お馬さんとどろんこ代かき】

### 事業効果

新規参加者が31組という全体の2割であり、認知度が広まってきたと考えられる。

「プログラムの中で自然の中で遊ぶことの大切さを実感できたか」というアンケートの回答より、9割の人が自然の中で遊ぶことの楽しさを実感できたことがうかがえる。

また、同じくアンケート内のコメントより、「子育てが楽しい、もりっこが居場所になっている」等のコメントも多くあり、安心して子育てに向かえるコミュニティを確立しつつあると考えられる。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

年間13回、講師も様々でありその都度の連絡、打ち合わせや日程調整に苦勞した。また、3年続けて行っているプログラムもあり、リピーターや新規参加者はいるもののマンネリ化しない内容構築は今後の課題である。そして、森の整備は継続的に行っていく必要があるので継続して行う。整備やイベントを通して親子が自然と触れ合い五感を使っていける環境づくりを今後の取り組みとしていく。

#### 【選定のポイント】

荒廃していた森林を整備し、自然の中での遊びや体験を通じて子どもたちの成長を見守る地域の子育て拠点として、馬耕による田んぼづくり、森での運動遊びや動植物の観察会など、年間13のプログラムを実施した。

親子で参加できる自然に親しむプログラムの実施により、子育て世代の居場所やつながりづくりにつながったので、引き続き上伊那地域の特徴を活かし、安心して子育てができる居場所づくりに取り組んでいただきたい。

団体名 野外保育もりっこ  
 連絡先 090-3381-8544  
 ホームページ、メールアドレス  
[Kidamey13@yahoo.co.jp](mailto:Kidamey13@yahoo.co.jp)

事業タイプ ソフト事業  
 事業費 1,015,000円  
 支援金額 761,000円

## 「みんなの冷蔵庫ちくま」創設事業

### 取組に至る背景・事業の目的

近年、災害や経済的な影響による離職、離婚、病気、介護、ひとり親世帯、ヤングケアラーなど、様々な事情により生活に困難を抱える人々が増加している。こうした状況の中で、地域社会における支援の必要性が高まっており、生活困窮者が安心して支援を受けられる仕組みの構築が求められている。

また、食品ロスや過剰在庫といった社会的課題も顕在化しており、これらを有効活用することで、持続可能な社会の実現に貢献することが可能となる。SDGsの目標にも合致するこの取組は、地域の助け合いの精神を活かしながら、社会的課題の解決を目指す。

### 事業内容

- コミュニティフリッジ「みんなの冷蔵庫ちくま」は、余った食品や日用品を企業・商店・個人が助け合いの精神で寄付し、生活に困難を抱える方に直接提供する取組である。
- ・核となる食料品等を保管・陳列する倉庫の設置(11月18日竣工)
- ・公正公平な運営のための運営委員会の設置(8月8日)
- ・ホームページの開設、利用者への周知、プレゼンターの募集、地域団体との連携。(随時)
- ・フードドライブの実施(10月11日)
- ・「みんなの冷蔵庫ちくま」の倉庫オープン(12月22日)。  
以後、毎月第2第4日曜日に営業。



【 みんなの冷蔵庫ちくま竣工式 】

### 事業効果

- 生活困窮者が、時間や人目を気にせず食料品等を受け取ることができる環境が整備された。
- 近年の物価上昇等の中で、児童扶養手当受給者や生活困窮家庭への支援を通じて、ウェルビーイングに向けた新たな地域コミュニティーのあり方に一石を投じることができた。
- 倉庫オープン後3回の開催で、20世帯が利用。令和7年9月14日時点では、延べ221世帯が利用。
- 長野県内で初めての設置であり、他への波及効果が期待される。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 関係団体による運営委員会が設置され、倉庫が完成したことでようやくスタートに立つことができた。
- 今後は、利用者への周知はもとより、企業等からの安定的な資金援助を目的とする「賛助会員」の確保と一般市民等からの「フードプレゼンター」の募集に努める。
- 将来は、支援を通じて継続的に子育てや貧困対策に取り組むために、社会性や革新性のあるソーシャルビジネスに転換していけるようコミュニティフリッジの制度充実を図るとともに、フリッジ運営のためのボランティアの募集など運営人材の確保を目指す。

#### 【選定のポイント】

生活困窮者が無料で食料品等を受け取ることができる「コミュニティフリッジ」を、県内で初めて整備。利用者が人目を気にせず安心して利用できる環境を整えるとともに、提供者が都合の良い時間に物資を搬入できる仕組みも構築。利用者・提供者双方に配慮した拠点づくりにより、利用のしやすさと支援の継続性を両立させた先駆的な取組として、今後の波及効果が期待される。

団体名 更埴ライオンズクラブ(千曲市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 026-272-4500	事業費	895,484円
メールアドレス k.lc@cap.ocn.ne.jp	支援金額	676,000円

## 「つくろう！ “舞台芸術の日”」こども実行委員会事業

### 取組に至る背景・事業の目的

本事業の目的は、佐久地域の子どもたちに対し、普段は見る機会の少ない舞台芸術に身近に触れられる機会、町の文化を自分たちの手でつくっていく経験を提供することである。2年目となるこの年は、よりこども実行委員会のメンバーが「自分たちの企画」として運営に携われるように、こどもスタッフ育成に関する取り組みを増やし、成長を見とれるよう計画した。

### 事業内容

- ①プロの劇団によるワークショップ・公演の開催  
 パントマイムによる創作劇が国内外での評価を得ているカンパニーデラシネラを招聘し、子どもたちのための身体表現ワークショップ、舞台公演を実施。いずれも18歳以下が無料で参加できるものとした。
- ・10月26日 ワorkshop「マイムや身体表現を体験」  
 (会場：イオンモール佐久平イベントホール)
  - ・10月27日 舞台公演「はだかの王様」  
 (会場：佐久平交流センター)



【終演後のアーティストとこどもスタッフたち】

### ②子ども実行委員会を組織

佐久地域の7校 13名の小学生が参加し、下記の活動を行った。

- (a) 6～2月に月1回の実行委員会で公演の宣伝や当日運営の準備等。具体的には、招聘アーティストやパントマイムについて知る、公演のテーマとタイトルを考える、チラシとポスターのデザイン・制作、商店や公共施設等への配布・掲示の依頼、ラジオやCATV出演による宣伝、会場レセプションの役割の勉強と練習、会場掲示物の制作など。
- (b) 8月にカンパニーデラシネラによる身体表現のワークショップ体験、講師へのインタビュー。事後に、体験を踏まえて10月に一般向けに行うワークショップの内容について講師と話し合った。
- (c) 公演当日の会場運営（会場準備、レセプションとして受付、案内等）

### 事業効果

- ① ワorkshopには小学1年～中学2年の18名、公演には約300名が来場し、その内の約6割が子どもであった。
- ② 来場者アンケートにて公演内容に満足した人9割、「来年もこのような公演をやってほしい」人9割。感想としては、普段は観られない質の高い舞台芸術に触れたこと、幼い子どもから大人まで楽しめる内容であったことを喜ぶ声が多数寄せられた。
- ③ 子どもスタッフはチラシやパンフレットのデザインについて積極的に意見を出し、手描きのイラストやマンガを制作したり、ラジオやケーブルTVで自分たちの活動や公演の面白さを語るなど準備に力を入れ、会場での受付や案内も力を合わせて行った。  
 アンケートではスタッフの対応に満足した人が97%で、一生懸命さやハキハキとした対応など子どもたちの対応を称賛するコメントも多く寄せられた。これらの体験から「自分たちで考え、工夫し、お客さんに喜んでもらう」ことの面白さや喜びを知り、より主体的に取り組む子どもスタッフの姿も見られた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

2年継続して開催したことで、佐久地域の住民に定着してきた感もあるが、協賛として応援してくださる方々を広域的に増やしていくことが課題である。そのため、近隣地域との連携を視野に入れている。

また、こどもスタッフが単年の参加で終わってしまうことが多いのも課題であり、継続したいというモチベーションを持てるよう、一緒につくる楽しさややりがいを感じてもらうことに注力する。

#### 【選定のポイント】

企画から地域の子どもが参加しており、子ども活躍の場となっている。イベントは好評で、特に公演は300人の会場を満席にした。

団体名	佐久地域“舞台芸術の日”運営委員会	事業タイプ	ソフト
メール	saku.butagei@gmail.com	事業費	2,353,694円
		支援金額	1,656,000円

## ふくろうの里「共に創る学びの場」創造事業

### 取組に至る背景・事業の目的

子どもたちに、豊かな自然の中で多様な人とふれあい、遊びながら人や自然に対する関心や愛着、信頼感を培い「人とつながる力」を育てたいと、青木村当郷塩ノ入地区の約 13,000 m<sup>2</sup>の遊休荒廃地を「ふくろうの里」と名付けて整備し、30年間にわたり大学生グループの「ふくろうず」とともに自然体験プログラムを企画し活動してきた。

活動を継続していくにあたり、活動拠点の安全性を高めることが必要不可欠であり、また、若い母親たちのアイデアを実現するため、本支援金を活用してソフト・ハードの両面から環境整備を実施した。

### 事業内容

#### ○森の絵本広場

豊かな自然の中で絵本の読み聞かせ等を実施。他のワークショップとも組み合わせ、母親たちの主体的な取組が実施できる環境整備に繋がった。

#### ○子育て講演会・30周年記念講演会

子育て講演会では、遊びの重要性についての講演会を実施。

30周年記念講演では、青木村教育委員会の「生涯学習講座」と共催で実施し、充実した子育てのあり方を若い親たちと学ぶ機会となった。また、地球クラブの歩みも紹介し、子育てをする仲間を増やす機会となった。

#### ○ミニ集会・共育キャンプ

子育ての不安や悩みを共有する場として、フィールドやクラブハウスを使ったミニ集会を実施。また、小学生以下の子どもを中心とした親子キャンプを実施し、多くの親子の参加があった。

#### ○安全確保と活動場所の拡大

フィールドの整備では、豪雨などの自然災害の被害拡大を防止すべく、側溝やフェンスの設置、入口の舗装等を実施したことに加え、雨水の流入を防ぐための土間打ちや芝生はりを実施することで、安全に使用できる面積が拡大した。

また、学生たちのミーティング等で使用してきたクラブハウスの改修の一つとしてエアコンを設置し、夏場でも安心して使用できるようになり、若い母親たちのミニ集会など多様な使用方法が可能になった。



### 事業効果

- ① 0歳から親子で参加する「こまめ」の活動が充実し、参加者が5家族から10家族に増えた。
  - ② クラブハウスのエアコン設置、土間設置等により、森のカフェが安心して行える環境が整った。若い母親が安心して集い、気兼ねなく話し合える場となった。
  - ③ 地球クラブに学校等に居づらさを感じる児童、園児が会員として参加した。今後、更に居場所として広がる可能性がある。
- ①～③の目標達成のために環境整備を予定どおり行うことができ、安心して活動できる場が整った。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ふくろうの里が整備され「共に創る学びの場」として多くの人が参加できる環境となった。

今後、さらに地域に立脚し、学生と共に多くの人のアイデアを大切にしたい。また、予想されている地震や、頻発する豪雨等の災害に対する備えをさらに充実させる必要もある。豊かな自然の中で多くの人とふれあいながら、子どもたちの自然や人に対する関心・愛着・信頼を深めていきたい。変化の大きい時代「人とつながって新しい社会を構築する力」の基礎を培っていくことを目指して地道に活動を続けたい。

**【選定のポイント】** 支援金を活用し拠点の整備等を実施して様々な事業を展開したことで、地域内外の多様な人が集う場となった。今後も拠点を活用して、都市部との交流の場や、若い母親たちの自主的な活動の機会の創出が期待でき、波及性・モデル性がある事業であると考えられる。

団体名：地球クラブ 連絡先： HPからお問い合わせください。 <a href="https://chikyu.club/">https://chikyu.club/</a>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">事業タイプ</td> <td>(ソフト事業、ハード事業)</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>3,951,511円</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>2,994,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	(ソフト事業、ハード事業)	事業費	3,951,511円	支援金額	2,994,000円
事業タイプ	(ソフト事業、ハード事業)						
事業費	3,951,511円						
支援金額	2,994,000円						

## 木遣り唄の継承と普及に関する事業

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪市木遣保存会は令和6年に発足50周年を迎えた。

近年は地域の人口減少と少子高齢化が進行するなか、趣味も多様化し若者の祭り離れも進んで御柱木遣り唄の担い手も少なくなってきた。

弊会は御柱本番での活動がメインであるが御柱年以外も通年練習、イベント参加、木遣り教室の開催などを通して木遣り唄の継承発展に携わって来た。しかし上述の状況下、今後その目的を果たすためには、更なる魅力の発信と後継者育成に力を注ぐことが求められていた。そこで50周年の節目を機に諏訪地域以外でも行われている御柱祭と木遣り唄に焦点をあてることにより新たな魅力を伝えるイベントを開催した。また楽譜のない唄を確実に次代に引き継いでいくための作業にも取り組んだ。

### 事業内容

支援金を活用して次の2つに取り組んだ。

まず6月16日、諏訪圏以外でも行われている御柱祭とそこで唄われている木遣り唄の存在を広く県民に知ってもらい興味を持っていただくため県内8地区から木遣り団体を招き諏訪市で『木遣りの集い〜唄で繋がるおんばしら〜』の公演を行った。出演者140名、観客約500名。

次に諏訪地域の御柱木遣りの継承発展に資するべく諏訪市木遣り保存会員（過去の会員を含む）による『諏訪御柱木遣り唄』CDを作成し諏訪地区にある8つの木遣保存会と諏訪市の図書館、博物館、小中学校に寄贈した。



【集いの様子】

### 事業効果

- ① 『木遣りの集い』来場者アンケートではイベントに対する高評価（「大変よかった」「よかった」の回答合計）が9割を超え諏訪地区の木遣り団体からの好評も得た。
- ② 出演交渉全体を通して、前日のリハーサル時に出演団体との交流の場を持つことができた。
- ③ 出演団体へのアンケートで「伝統の重みを実感し、活動及び後継者育成への意欲が向上した」様子が伝えられてきた。
- ④ 事業終了後には小学校への学習支援や弊会主催の木遣り教室で作成した木遣りCDを活用している。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

#### 【イベントでの工夫、課題】

- ・県内4地域（東北中南信）の団体が出演し、そのなかに老若男女が入るよう配慮した。公演のなかで各地御柱祭の記録映像を活用した。コロナ禍で制約を受けた御柱祭とそれを乗り越えようとする氏子や木遣り衆の様子を伝えようと努めた。弊会会員は脇役に徹した。木遣り研究者による解説を入れた。
- ・ポスター・チラシ・新聞・有線テレビ等で広報活動をしたが目標入場者数を達成することができず若い年齢層の来場者も少なかった。

#### 【木遣りの普及と後継者育成に向けて今後の取組み】

- ・事業の成果を土台に諏訪及び県内木遣り団体との連携を強化し、新たな発表の場を創出して行く。
- ・CDを活用して木遣り教室・小中高校の学習支援などの活動をおし進める。
- ・SNS活用など情報発信を工夫して行く。

#### 【選定のポイント】

県内8地区から木遣団体を招いて公演を行い、団体間の連携や学びにつなげるとともに、作成した「木遣り歌CD」を小学校の授業で活用するなど、木遣の継承にも期待がされる。

団体名 諏訪市木遣保存会	事業タイプ ソフト事業
	事業費 3,843,463円
	支援金額 2,915,000円

## 地域の音楽芸術文化「いのちのWa!」高揚事業

### 取組に至る背景・事業の目的

小中学校では、日常の音楽授業の他に様々な音楽活動があるが、さらに質の高い音楽文化を提供できるように専門家が学校に出向いて児童・生徒への音楽指導や音楽専科教師への指導を行う。

コンサートの継続的实施により、参加団体の広がりや音楽を窓口「いのち」について考え、その尊さや美しさなどを音楽表現で発信できる機会として、上伊那全域にこの環を広げ、地域活性化につなげる。

未来ある子どもたちに、質の高い音楽に出会ってもらうために、音楽活動に専念してきたプロの活動家の演奏や指導により、音楽の本質を伝えていくことを通し、上伊那から音楽を愛する児童・生徒や音楽創作者を育成。また、現在活躍する信州出身の音楽家や精力的に活動をしている音楽団体と手を組み、上伊那地域の音楽文化向上を目指す。

### 事業内容

- ・上伊那管内の小中学校・一般団体等の音楽指導
- ・上伊那管内合唱団コンサートへの合同参加
- ・「いのちのWa!」コンサート開催

実施時期：11月10日(日)

実施場所：駒ヶ根市文化会館

内容：①駒ヶ根市内の小学校4校・上伊那管内中学校8校の参加。長野県高等学校合唱連盟・南信リーダーズコーラス11校参加

②上伊那管内の5合唱団体相互の交流、子どもたちの合唱指導、合同合唱の実施

③いのちのWa!オーケストラの結成

④オーケストラと合唱との合同演奏

- ・「しごとうた」や「わらべうた」等の楽譜か音楽を通じた地域文化の伝承



【いのちのWa!コンサート】

### 事業効果

- 上伊那管内・県内の小中学校の音楽合唱指導、公民館等歌唱指導と公演等 100回
- 郡内合唱団コンサートへの合同参加、企画支援  
構成合唱団 Chor do、明日歌、Lumine、いなっこ、新星合唱団の5団体間の友情出演と企画運営支援のべ20団体の合同演・企画運営支援
- 「いのちのWa!」コンサート開催
  - ①小学校3校参加、上伊那管内中学校参加、南信高等学校リーダーズコーラス参加
  - ②事後アンケートでの満足度 95%
  - ③演奏者アンケートの満足度 95%

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 「いのちのWa!」コンサートにおける参加学校、団体、個人の拡大、運営協力企業や個人の拡大
  - ① 小学校の参加校がエリアを超えて(駒ヶ根地区から伊那地区へ)増加の見込み
  - ② 地域にある合唱団、個人に参加を呼びかけ希望参加者が発現、次年度以降増加の見込み
  - ③ 地域の企業の協賛、運営協力者の増加、地域住民の運営面への参加の発現

#### 【選定のポイント】

本事業は、小中学校の音楽合唱指導や公民館歌唱指導等を1年間に延べ100回開催し、音楽を通じた地域住民の交流等を進め、音楽文化の定着につながった。

今後は、地域の協力や協賛企業の増加により、自主運営で地域に質の高い音楽を届ける機会を創出し続けることが期待できる。

団体名 いのちのWa!実行委員会 連絡先 0265-83-1130 ホームページ、メールアドレス j.09027340753@gmail.com	事業タイプ ソフト事業 事業費 4,046,222円 支援金額 3,005,000円
---	--

## 教育版マイクラフトを活用した公園遊具アイデア構築事業

### 取組に至る背景・事業の目的

台城公園の遊具更新を契機に地域の子供たちと公園遊具のデザインを一緒に考えるために教育版マイクラフトを活用したワークショップを開催。

作成したデザインを広く住民に知ってもらうために3Dプリンタにより立体化し子供たちの手で着色。それを町の文化祭や役場のロビーにて展示・投票を行った。

### 事業内容

#### 【教育版マイクラフトを活用したワークショップ】

・史跡である台城公園の歴史や伝説に触れた後、台城公園を散策しアイデアワークシートを作成。その後レクチャーしながら、教育版マイクラフトでの制作を行った。

・公式LINEやHP等での広報を行い、マイクラフトのためのPCの貸し出しも行った。ワークショップ運営サポートとしてマイクラカップ、伊那まちBASE、静岡大学、信州大学からスタッフとして参加いただいた。

#### 【着色会】

・教育版マイクラフトで作成した遊具のデータを3Dプリンタにより模型として実体化し、子供たちの手で着色した。

#### 【松川町文化祭・松川町役場での展示・投票】

・着色した作品は、松川町文化協会と連携し文化祭及び、役場ロビーにて展示を行い、住民の皆さんによる投票を行うことで、事業の主旨を広く知っていただくことができた。

### 事業効果

①教育版マイクラフトを活用することで、小中学生の意見を取り入れた遊具アイデアを形にすることができた。

②ワークショップでのグループ分けは主催者側で行ったため、初対面同士でのグループとなったが「グループで話し合いながら作品を作るのは楽しかったか？」との問いに、80%が「楽しかった」と回答し、「作業を分けながら効率よく進めることができたか？」との問いには85%が「そう思う」と回答するなど、共同作業による協調性の育成の場とすることができた。

③作品の投票（アンケート）は文化祭で133票。役場ロビーで96票投票いただき、10歳未満～80代以上と幅広い年齢層に事業への関心を持ってもらうことができた。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

○アイデアをもとに実現可能な遊具をデザイン、設置工事を行い、新たな子どもたちの遊び場として維持管理を行っていく。

令和7年度・プロポーザルの実施

作品・展示の結果、地区の要望等をもとに実現可能な遊具の提案をいただく。

・社会資本整備総合交付金（公園長寿命化対策支援事業）を活用し、遊具の更新を行う。



【ワークショップの様子】

**【選定のポイント】**

全国初の「教育版マイクラフト×公園遊具デザイン」事例であり、老朽化した公園遊具の更新を契機に、教育版マイクラフトを活用して小中学生が主体的に遊具デザインを考えると、創造性・地域愛着を融合させた先進的な取り組みである。

団体名 松川町	事業タイプ ソフト
連絡先 0265-36-7028	事業費 3,815,043 円
	支援金額 2,861,000 円

## 防災・災害ボランティア育成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

令和6年は元旦から能登地震災害が起き、自然災害におけるボランティアの役割が重要視される。なかでも技術系ボランティアのニーズが高まっている。当団体では令和元年台風19号災害時、令和6年の能登地震災害に団体所有の重機やボランティアを派遣した。その経験から自然災害において、重機のボランティアオペレーター等技術系ボランティアが増えることにより、行政とも連携しやすくなり、より被災者のニーズに応えられる。また、災害ボランティア活動をすることにより、防災意識の啓発にもなり、地域に人材を増やし、安心安全につなげる。

### 事業内容

- ・当団体で令和元年台風19号災害時、令和6年能登地震災害には、団体所有の重機やボランティアを派遣した。その経験から当団体の所有する小型車両系建設機械（2tミニバックホー）を使い重機のボランティアオペレーターの養成をおこなった。
- ・災害時に必要なチェーンソーの特別教育を実施した。
- ・災害時に必要とされる技術や知識を養うため防災キャンプを実施し、防災食、救急救命法、AEDの使用実習等を行った。



【事業の様子】

### 事業効果

- ・参加者は、車両系建設機械資格所有者で実務経験が殆ど無い人（俗にいうペーパードライバー）、ボランティア経験は有るが初めて重機を扱う人、災害ボランティアに意欲的な初心者で、参加者が長時間運転をする事により、よりスムーズな作業が出来る様にした。
- ・絆JAPANの災害ボランティアとして登録して下さった方が5名、再受講生が5名でスキルアップに努めた。
- ・チェーンソー講習会は7名の参加者があり、安全な取り扱い、実地訓練、応用作業などを行い全員が終了証を手にした。
- ・防災キャンプでは災害時に役に立つロープワークや防災食、救急救命法、AED操作法などを学び、災害時に役に立つスキルアップをした。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

更に重機を使った災害復旧技術の向上、防災意識の啓発、地元の災害ボランティアの技術や知識の向上を図る。

また、今後は重機のみならずチェーンソーの講習や、簡易テントの作り方、救命救急の方法や、ハイゼックス炊飯のやり方等災害時に役立つ様々なスキルを住民の方々に身に付けて頂くべく内容を広げて事業を進めて行く予定である。

令和6年1月1日に発生した能登の地震災害に当団体の重機や3tダンプ、資材、ボランティアを派遣した。

#### 【選定のポイント】

災害時において必要とされる技術系ボランティアの育成により、受講者のスキルアップが図られ、有事の際の体制づくりや被災者のニーズに応じた対応が期待されるとともに、防災意識の啓発にもつながる。

団体名 特定非営利活動法人絆 JAPAN  
 連絡先 TEL 0266-78-3979  
<https://www.facebook.com/NPO.kizuna.japan>

事業タイプ ソフト事業  
 事業費 803,119円  
 支援金額 591,000円

## 北アルプス・思いやり防災キャラバン

### 取組に至る背景・事業の目的

近年、全国各地で地震・気象災害などでの自然災害が激甚化する中、人口減少・高齢化が進む地域では、誰一人取り残さない「みんなでみんなを助ける」仕組みづくりが求められている。学校での防災教育や自治会による訓練やイベントの取り組みを通じて、「まちづくり」や「ひとづくり」を醸成しながら、地域防災力の向上を目指す。

### 事業内容

- ◇小・中学校、特別支援学校での出前授業  
防災学習、ダンボールベッド・携帯トイレ体験等
- ◇地域住民向けの防災講義・避難所体験および訓練  
能登半島地震支援活動からの教訓
- ◇被災経験者講演会、防災グッズ展示  
ぼうさい女子お話し会、フリートーク  
能登支援パネル・携帯トイレ・ダンボールベッド・避難ルームの展示
- ◇自治会・自主防災会での防災講座・体験



【授業の様子】

### 事業効果

- ・出前授業 4校 児童 262名の他保護者も参加
- ・防災講義・避難所体験訓練 2回 145名参加
- ・被災経験者講演会・ぼうさい女子お話し会 30名参加
- ・自治会での防災講座・体験 10箇所 延べ397名参加

地域住民の防災意識が高まり、携帯トイレ(便袋・凝固剤)を備蓄する計画を立てた自治会もいる。また、防災士資格取得を希望する参加者も現れ、地域の担い手育成にもつながった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・学校や教育委員会との連携を深め、より多くの学校で出前授業を実施することで、防災教育が積極的に展開されていくきっかけづくりと考えている。
- ・防災は「まちづくり」「ひとづくり」であり、繰り返し訓練を行うことで、地域住民同士が災害時に助け合い、「みんなでみんなを助ける」ことにつながると考えている。

#### 【選定のポイント】

児童・保護者・教職員が防災について考える機会となる出前授業や地域全体の防災意識向上につながる防災講座や避難所体験を公民館で開催した。様々な体験・学習を継続することで安心して生活できる地域づくりに繋がることを期待できる。

日本防災士会長野県支部 大町市大町 1857-2	事業タイプ	ソフト
	事業費	382,345円
	支援金額	305,000円

## 幕岩地域景観改善事業

### 取組に至る背景・事業の目的

幕岩地域はかつて鉄平石の採掘が行われていた場所で現在は何も使用されず荒廃していた。この場所は桑原城址や諏訪の市内が見下ろせ、雨上がりなど自然条件が整えば雲海も発生する。また鉄平石の採掘跡は大きな石の壁となっており迫力がある。この場所を新たな景勝地にして訪問者の増加、市民の遊び場等に活用することで地域の活性化につながると考え整備事業を実施した。

### 事業内容

幕岩整備は2年目の今年で整備完了。幕岩近隣の古岩久保整備1年目で参道整備、遊歩道整備を実施。

- ・雑木の伐採 幕岩3回(4月、5月、8月)、古岩久保1回(11月)実施
- ・幕岩植樹(4月)50本、維持活動草刈り実施(10月)
- ・幕岩の公園化 展望デッキ、パーゴラ、トイレの設置(5月、10月)  
入り口に公園の石碑(10月)、第一広場に案内掲示板(令和6年3月)、第二広場に西山の山名看板を設置(12月)等訪問者の好感度向上策の実施。公園完成式を実施。  
幕岩自作カレンダーの配布(10月)
- ・古岩久保の参道整備、遊歩道整備6回(11月、12月)
- ・原木シイタケ体験の原木配布(令和7年2月)実施



【 遊歩道づくり 】

### 事業効果

- ・支援金を活用し幕岩、古岩久保の整備が多くの参加者の協力で予定通り行うことができた。幕岩公園の完成式を行い約150名の参加と報道による広報もされ知名度を上げることができた。
- ・公民館や地元の団体等によるイベントが実施されて約50人が参加。日常的にも年間200人以上の訪問者が確認された。
- ・本活動全体で延べ人数259名の地元の皆さんが参加した。予め子供たちと菌打ちしたシイタケの原木を1年間管理し今年参加者に配布した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・令和6年度に幕岩公園の完成、古岩久保の参道整備が終了し、令和7年度はこの2拠点をつなぐ遊歩道をつくり一帯を周遊できるようにすることで更に訪問者を増やしたい。この地を活用した子供たちの参加できる企画を学校等にも相談し検討してゆきたい。
- ・持続可能な拠点として作った施設の維持管理を地元ボランティアの皆さんと行い、幕岩には訪問者の意見を聞くノートなどを置き訪問者の好感度を上げてゆきたい。
- ・古岩久保には“古岩窪岩陰遺跡”があるが現在知名度も低いため教育委員会の協力をいただき遺跡の説明看板を設置する。
- ・維持財源は間伐材等を活用した薪の販売、地元財産区等からの活動への支援金で賄える見込み。
- ・幕岩公園完成後の維持管理を行い公園の美化に努める。

#### 【選定のポイント】

多くの地域住民の参加を得て行ったエリア一帯の整備により、平日の訪問者や幕岩を活用したイベントが増加し、更なる地域の活性化が期待される。

団体名 東山地域里山活性化プロジェクト	事業タイプ    ハード事業、ソフト事業 事業費            1,890,005円 支援金：          1,443,000円
---------------------	---

## 鹿島川左岸堤防遊歩道整備事業

### 取組に至る背景・事業の目的

鹿島川左岸堤防は北アルプスの眺めがよく、観光客等が鹿島川の清流と北アルプスの山並みを撮影するために訪れるが、足元の状態が悪く、移動に苦慮する姿が見られる。

鹿島川左岸堤防に遊歩道を整備することで、堤防からの眺めを観光資源として活用し、地域の活性化につなげることを目指す。

### 事業内容

- 遊歩道を整備し、テーブル、椅子、看板、花台等を設置（7月～11月）
  - ・重機作業等は専門業者に依頼したが、できる限り会員等が行った。
  - ・地区内外から多くのボランティアが作業に参加。テーブル、椅子等の組立及び防腐剤の塗布には、近隣の小中学生も参加した。（令和6年度は、全体の3分の3の整備を実施）



【速歩で訪れた皆さん】

### 事業効果

- ・堤防の整地完了後、周辺宿泊施設の宿泊客や散歩、ランニング等に利用する人の姿が見られ、撮影スポットや散歩コースとして定着し始めている。
- ・地区住民、近隣住民、周辺観光施設等にも参加を呼び掛け、地域ぐるみで整備を行うことで、地域のつながりが深まることが期待できる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地区内外の住民や近隣の小中学生にも参加を呼びかけながら、整備を行った。

整備後も、さらに魅力ある遊歩道とするため、環境保全のための定期的な草刈りや景観形成のための植栽等に取り組む。

全線開通後のイベントの開催等、周辺宿泊施設と情報交換を行いながら、他では実施していないインパクトのある企画を検討していく。

#### 【選定のポイント】

鹿島川左岸堤防からの眺めを楽しめるよう、地域住民や近隣の小中学生の参加も得て、堤防に遊歩道を整備した。引き続き地域住民等と協力して草刈りや植栽を整備し、遊歩道をイベント等で広く活用することで、来訪者の増加や地域の活性化につなげることを期待する。

団体名	はなみフラワーズ（大町市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	大町市平999-1	事業費	2,365,000円
		支援金額	1,773,000円

## 小諸マチナカ回遊プロジェクト「こもろ浪漫」事業

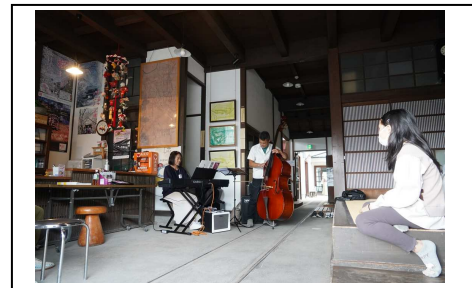
### 取組に至る背景・事業の目的

小諸城址・懐古園から小諸駅を渡った旧北国街道沿いに観光資源となりえる歴史ある寺社や町屋が残っており、古い家を改装したモダンな店がオープンしています。しかし、小諸への来場者の殆どは懐古園や駅前で終わってしまい、旧北国街道沿いをはじめとするマチナカへの散策するルートが確立していない状況でした。そんななか、古き良きものを今風に活かしたアート・デザイン活動に対し、女性や若者の関心が高まっていることから、小諸の歴史に深く関わる寺社をアートやデザイン、工芸といったモダンな視点で情報発信や催しを行い、旧北国街道沿いを迎える散策のルートを確立し、散策促進及び関係実行の増加を図るために企画しました。

### 事業内容

小諸の旧北国街道沿いにある寺社及び町屋を中心にマチナカ散策ルート及び観光スポットを開発することにより、マチナカ商業の活性化及び寺社や町家への維持管理意識向上、活用へつなげる仕掛けを実施。

- ・こもろ浪漫輪印巡り：10月19日～11月20日  
街道沿いの寺社に輪印（スタンプ）を設置し、回遊。
- ・街道LIVEの開催 10月19日（土）  
寺、蔵、宿場町でアーティストによるライブを開催。
- ・こものみ市の開催 11月2日（土）  
寺に菰を敷いて出店。出店者のテストマーケティングに。



【街道LIVEにて町家で演奏の様子】

### 事業効果

- ① 各寺の特徴を活かした輪印を設置したことで、旧北国街道沿いを歩く人が増加し、店舗来場者も増加。（総来場者数910名（目標750名））
- ② 寺社や蔵、宿場町を会場にイベントを開催することにより、もっと小諸を知りたい、小諸に関わりたい、盛り上げたいという女性や若い世代の県外市内含め15名（目標10名）がボランティア参加し、建物管理者や住民と交流が生まれた。
- ③ こものみ市開催により31店舗がお試し出店。子どもたちを対象にした出店があり、多くの子どもたちが寺に来場した。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

【工夫した点】マチナカにある17寺社及び関係者との企画及び情報共有を行う寺社会を立ち上げ、個々にやりたいことを言いやすく実行しやすい場を作ったことにより、自分事での取り組みが進んだ。

#### 【今後の取り組み】

観光資源となる寺社や蔵、宿場町の観光資源となるポイントをより磨き上げ、各観光資源にあったイベント企画を実施。寺社や蔵、宿場町といった施設で開催前に補修や掃除といった維持管理の活動を実施し、より維持管理に興味を持ってもらう活動を実施。

・今回つながった子ども育成団体や音楽関連アーティストとより密な関係構築をするとともに、他育成・教育団体との協力関係を拡大することにより、音楽のまち・こもろへの文化創造を目指す。

・継続的に活動できるよう運営資金を回収するチケット、商品の販売など、商品開発をしていくとともに、旧北国街道沿いの企業や店舗と連携し、マチナカ経済が活性化する連携施策を取り入れていく。

#### 【選定のポイント】

複数の寺社が参加しており、地区一帯でのまちおこしの機運を生み、イベントに目標以上の来場者を集め、駅周辺の新たな観光資源としての可能性を掘り起こした。

小諸マチナカ回遊プロジェクト実行委員会 事務局 企画屋かざあな 03-6434-5581 ホームページ <a href="https://komororoman.com">https://komororoman.com</a> メール komoro@komororoman.com	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト事業 985,013円 374,000円
---	----------------------	-------------------------------

## 官民が協働したブランド発信基盤形成事業

### 取組に至る背景・事業の目的

茅野市には国宝土偶2体を含む稀有な縄文文化遺産がある。また、当市は日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」を構成する自治体の一つとなっている。そういった中でこの縄文という文化、歴史的魅力、ストーリーが、まちづくりに十分活かされていなかった。ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉾山、麓で作られた人や森に生きる動物を描いた土器や土偶といった文化がある八ヶ岳を中心とした中部高地にて、それを発信し体験できる新たな拠点が必要と考えた。

そこで、官民が連携し新たな堅穴住居を作り、地域の特性や価値を考古学の枠にとどめず、観光や教育にも生かし、自然との共生や防災について縄文の観点から学ぶ「場」、体験する場を創出する。

### 事業内容

縄文文化やちの暮らしといった地域の魅力を体感してもらうため地域住民の他、国内外の方々を募り、茅野市出身で著名な建築家の藤森照信氏の設計監修により、縄文当時の道具であったであろう石斧等を使い参加者の手で樹皮葺きの堅穴住居「古過庵」を復元し縄文文化体験施設となりうる新たな拠点づくりを行った。併せて発信力強化を目的にスキルアップ講座も開催した。

- ・“藤森式”堅穴住居づくりワークショップ(9/14～11/24・全10回)
- ・Instagramスキルアップ講座(7/7～11/16・全4回)



【堅穴住居復元作業の様子】

### 事業効果

- 藤森先生との交流を求めてきた方やちの暮らし体験による地域住民との交流をきっかけに参加した人など、参加した理由はさまざまであったが、縄文の魅力に触れ何度も参加し、他地域の縄文関係施設も訪れるようになるなど交流人口の拡大とともに、移住を検討する方もでて、地域への関心が高まり、観光による地域づくりに寄与できた。(参加者延べ人数218名)
- 準備から建立に至っては、ほぼ全員が初体験の作業だったが、それぞれの経験を活かし提案し合いながら、参加者が主体となり進めることができた。
- 参加者の約半数が女性、内3割が40歳未満であり、女性や若者も含めて地域の観光資源を創出する事業となった。
- 縄文の拠点整備とともに、縄文を新たな観光資源として活かせる事業となり縄文や当DMO事業の認知度向上を図れた。
- SNS発信において目的意識や数値的なチェックを学び、今後の発信力向上が期待できる。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 自主的な参加を促すため、復元した堅穴住居を“みんなの拠点”であることを共通認識として共有し、若者、女性といった参加者が集い、地域づくりに貢献できる場所となるようにした。
- 2025年4月から当事業で整備した拠点を活用した体験を開始し、縄文の魅力や考え方を体験していただいている。今では移住希望者や現代の暮らしに問いを持つ人々が集う場となっている。
- この場所が縄文の拠点として続いていくよう、近隣の縄文施設との連携、県内の日本遺産を繋ぐプロジェクトとの連携、国内外のファンが訪れる事業を展開していく。
- 新たな体験・旅行商品造成はもとより、学校授業や企業研修(チームビルディング)の場としても活用を拡大していきたいと考えている。

#### 【選定のポイント】

堅穴住居作りワークショップやInstagramスキルアップ講座の開催を通じて、住民が地域の魅力を知る機会となり、地域愛の醸成につながったとともに、今後の魅力発信について期待される。

団体名(一社)ちの観光まちづくり推進機構	事業タイプ	ハード事業・ソフト事業
連絡先 0266-73-8550	事業費	6,684,517円
<a href="https://chinotabi.jp/">https://chinotabi.jp/</a> ・ask8@chinotabi.jp	支援金額	4,751,000円

## RIDE ON TIME in 大芝高原

### 取組に至る背景・事業の目的

東京オリンピック・パリオリンピックにおいてスケートボードが正式種目として競技が行われ、金メダル獲得や競技人口の増加などストリートスポーツの注目が高まっている。

大芝公園でも駐車場を利用して BMX をしている人を見かけるようになったものの、駐車場ではスケートボード等のストリートスポーツが禁止されている。全国的にも利用が制限されている公園が多く、ストリートスポーツをする競技人口が増加する一方で、スケートボード等ができる環境や場所が少ないという課題がある。

スケーターに安心して滑ってもらえるように環境を整え、ストリートスポーツを推奨することで 10 代、20 代の若い世代を大芝公園に集客し、情報発信をすることで UIJ ターンを促進していく。

長野県の北信・東信には常設パークがあるが中信と南信にはないため、南箕輪村が南信のモデル的事業となり、県内外からの集客や既存施設との相乗効果により大芝高原の観光推進を図る。

### 事業内容

- ・ 8 月 24 日 (土) スケートボード体験イベント  
(参加者 31 名)
- ・ 11 月 10 日 (日) スケートボードスクール  
(参加者 24 名)
- ・ 6 月 29 日 (土) スケートボードパーク一般開放  
(参加者 34 名)
- ・ 7 月 13 日 (土)       "       (参加者 24 名)
- ・ 9 月 21 日 (土)       "       (参加者 31 名)
- ・ 11 月 9 日 (土)       "       (参加者 29 名)
- ・ 11 月 30 日 (土)     "       (参加者 26 名)
- ・ 8 月 24 日 (土) フリースタイルモトクロスイベント  
(スケートボード体験イベントと同時開催)



【 イベントの様子 】

### 事業効果

自然の中でスケートボードを安全に楽しめる場所を提供し、大芝高原の魅力を発信した。また、県内初開催となったフリースタイルモトクロスバイクイベントが新たな客層を呼び込むきっかけとなった。

スケートボードを通じて地域住民が気軽に交流できる場として、ひとつの在り方をつくることができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

当初予定していた体験、スクール開催日の天候に恵まれず、当日の中止もありながらの運営で苦労した。SNS などの利用、プロライダーやインフルエンサーを招いての情報発信等で多くの集客を達成することができたが、今後は、より幅広い年齢層の方々が楽しんでいただけるような機会の提供を検討していきたい。

#### 【選定のポイント】

プール跡地を活用し、3 年間で計画的にスケートボードパークを整備し、若者ニーズの高いストリートスポーツ体験イベント等の普及事業を実施した。

自然の中でスケートボードを安全に楽しめる場を提供することで大芝高原の新たな魅力発見に寄与し、今後もパーク活用と地域活性化や交流の推進が期待できる。

団体名 南箕輪村観光協会	事業タイプ ソフト・ハード事業
連絡先 0265-72-2180	事業費 3,369,742 円
ホームページ、メールアドレス <a href="https://kankou-minamiminowa.nagano.jp">https://kankou-minamiminowa.nagano.jp</a>	支援金額 2,443,000 円

## 安曇野アートラインを巡り、AR（拡張現実）を体験しよう

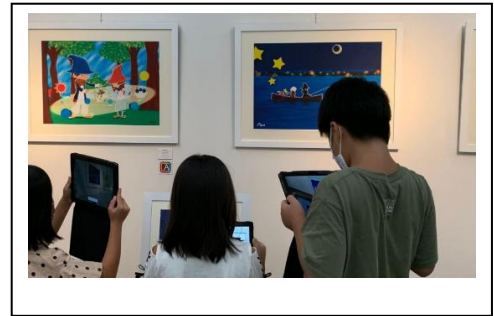
### 取組に至る背景・事業の目的

安曇野アートライン推進協議会と北アルプス国際芸術祭が連携を図り、持続可能な観光地づくりを進めるため、北アルプス国際芸術祭 2024 の開催期間に合わせて、最新の技術を取り入れた作品を加盟館で展示することで、特色ある観光地づくりに努めるとともに、当地域の芸術文化振興に資する取組として実施した。

### 事業内容

北アルプス国際芸術祭 2024 の開催期間(9/13～11/4)に合わせ、安曇野アートライン推進協議会加盟館の美術作品や建物等を対象とした AR (Augmented Reality: 拡張現実) 作品を制作し展示した。

- ・ AR 作品 17 点の制作および展示
- ・ 作品内容は芸術祭に関連したものとし、安曇野アートライン推進協議会と芸術祭双方での宣伝を実施
- ・ 参加美術館では、芸術祭のパスポート販売を実施し、芸術祭期間中に 2 館以上入館した方へ、オリジナルグッズを進呈



【AR 作品の鑑賞】

### 事業効果

- ・ 作品内容を芸術祭に関連したものとし、安曇野アートライン推進協議会と芸術祭双方に周知することで、観光客が単館だけでなく他の館へも巡ることを促すことができ、各館の来館者が増加した。
- ・ 地域住民の地域における芸術文化への理解を深めることにもつながった。
- ・ 全国的にも珍しい、美術館における AR 作品の展示による、これまでにない視点や角度から、作品の魅力や観光地の魅力をさらに高めることができ、当地域にとってモデル的な観光資源となった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ AR 作品技術を広めるため、地域の子供たちを対象とした AR 作成教室等も検討するなど、より発展的な事業展開を目指していきたい。
- ・ AR 作品は常時展示が可能であることから、AR 作品が今後増加していく事で、引き続き持続可能で発展的な観光地づくりに取り組んでいきたい。

#### 【選定のポイント】

専門業者が制作した AR 作品の他に独自で AR 作品を制作し、美術館に展示した。また、北アルプス国際芸術祭との連携により、観光客の周遊を促進し、来館者が増加した。

AR 技術を活用した新たな観光資源として、今後の地域文化振興や観光活性化につながることを期待できる。

安曇野アートライン推進協議会 事務局:安曇野市商工観光スポーツ部観光課	事業タイプ	ソフト
	事業費	602,616円
	支援金額	456,000円

## 南信州フォレストパーク構想事業(地域特産品販売促進事業)

### 取組に至る背景・事業の目的

阿智村・平谷村・根羽村の3村では、国道153号沿線の活性化を目的に、行政・観光協会・事業者が連携して観光PRを展開している。令和4年度から「南信州フォレストパーク」として森をテーマにした広域観光の取り組みを開始し、令和5年度には特産品販売イベント「森の収穫祭」を初開催。トウモロコシやトマトなど夏野菜のPRを通じて認知度向上を図った。

今年度は、1箇所でのイベントに加え、3村全体を周遊する企画を計画し、広域観光の促進を目指す。また、森林保全の重要性や間伐材の利活用について地域に発信し、農業・観光と連携した産業一体型の事業展開を進める。

人口減少による担い手不足が懸念される中、地域の魅力を発信し関係人口の創出を図るとともに、移住・定住の促進を目指す。加えて、昼間の観光コンテンツ不足という課題に対し、無人販売所の周遊を新たな観光資源として展開していく。

### 事業内容

西部3村(阿智村・平谷村・根羽村)は昨年度同様、地元農家と協力し、3村の強みである夏野菜を中心とした特産品の販売イベントとして「森の収穫祭」を開催した。また、地域の間伐材を活用し、無人販売所を製作した。地域の農産物を購入しながら地域を巡るスタンプラリーを実施した。

無人販売所の完成の際には、地域住民に森林資源の活用を学んでもらうための講習会を実施した。

森の収穫祭：8月11日 スタンプラリー：8月・10月



【間伐材を使用した無人販売所】

### 事業効果

- ①8月11日に地元農家と協力し、特産品販売イベント「森の収穫祭」を実施し、地域内外から約600名の来訪者が訪れ、地域を知ってもらうきっかけを作ることができた。
- ②農業者交流会を通じて、行政区の枠を超えた交流が増え、8月と11月には3村の農家が愛知県で行われたイベントに参加した。
- ③無人販売所の設置により、地産地消の流れができ、農業者の所得向上と観光客の周遊に寄与することができた。
- ④無人販売所に地域の森林整備で出た間伐材を使用し、講習会を行うことにより、森林保全について考える機会を創出することができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「森の収穫祭」を2年間続け、地域のファンが増えていることが実感できた。夏だけでなくその他の季節にも農業者が集まってイベント開催ができるように検討を進めていく。8月と11月には愛知県のイベントに同時に出店するなど、農業者同士の交流も増えつつあるため、地域外での出店等により地域の農産物のPRとともに農業者の交流が増えていくことを期待する。

また、地域材を活用し、農業・観光との連携を行うことができた。今後も森林整備は行われ、地域の間伐材が利活用できる仕組みを検討していく。

引き続き阿智村・平谷村・根羽村が「南信州フォレストパーク」として、ファンを増やすための連携を強化していきたいと考えている。

#### 【選定のポイント】

「森の収穫祭」や無人販売所を中心とした取り組みは、地域資源を活かしながら、農業・林業・観光・教育を横断的に結びつけ、地域住民の主体的な関与と、外部への発信力を兼ね備えたこのモデルは、他地域への展開可能性が高く、持続可能な地域づくりのロールモデルとして波及効果が期待される。また、3村が連携し、共通の地域資源を活用する本事業は、元気づくり支援金の新基準A「広域的な連携事業」のモデル的な取組として他団体の参考になりうる。

団体名	下伊那西部3か村地域振興協議会	事業タイプ	ソフト
連絡先	0265-43-2220	事業費	1,414,008円
HP	<a href="https://presswalker.jp/company/11753">https://presswalker.jp/company/11753</a>	支援金額	1,099,000円

## 安心して暮らせる地域づくりを持続させるための地域商社推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

農村集落では人口減少に伴って区費が減少し、財政難が深刻化することで、自治活動の継続に支障をきたすことが予測される。

この課題を解決するため、令和4年度には空き家を改修し、「受け皿の整備」を実施。また、令和5年度には、地域住民との意識共有と移住希望者への理念発信を通じて「受入体制の整備」を進めてきた。

令和6年度は、地域資源を活用した商品を開発し、地域外の消費者に販売する「コミュニティビジネス」によって、収益を確保し、売上の一部を区会計に繰り入れることで財政を補う仕組みづくりを目標とした。

### 事業内容

○連携協定を結ぶ飯山市北原区をモデル地区として、地域資源を活かした3つの新商品を開発。

#### 【商品ラインナップ】

- ・寛永18年の新田開発から続く米「四百年歴史米」
- ・里山に自生するクロモジの枝を使ったボールペン「くろもじペン」
- ・クロモジの葉を用いたお香「くろもじ香」

○販売ツールとして、クレジット決済対応のウェブサイト「忘れがたきふるさと便」を構築し、オンライン販売を開始。



【完成した商品を紹介】

### 事業効果

・商品の開発にあたり、地域資源の発掘から製作、ストーリーづくり、PR動画制作、地域情報の発信まで、企画から販売までを一貫して実施し、地域資源のブランド化を実現。

・新たに制作した商品の売上の一部を区会計に繰り入れ、財政補強に活用。

令和7年4月から8月の販売利益から8万円を区会計に繰り入れることができた。

(参考：一か月あたりの区の支出は約7万円)

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

販売サイトには北信州の豊かな情景を思い起こさせる「忘れがたきふるさと便」という名前を付け、都会で暮らす人々に“ふるさとのぬくもり”を届けたいという願いを込めた。

三カ年に渡る取組によって、エリアマネジメントにおいて重要な「人」に加え、「物」「金」「情報（地域情報）」の4要素を得ることができた。

今後は、このモデルを他地域にも展開し、持続可能なコミュニティビジネスの普及を目指す。

#### 【選定のポイント】

地域住民と協力しながら集落の自治活動を持続可能な形で支える仕組みとして、他地域におけるモデルとなることが期待できる。

令和6年度、地域で開発した商品は、ストーリー性を持たせることで付加価値を高め、計画を上回る効果的な発信・販売を実現することができた。

団体名 一般社団法人未来社会推進機構 ホームページ <a href="https://mirai-ss.org/">https://mirai-ss.org/</a>	事業タイプ	ソフト事業
	事業費	1,039,832円
	支援金額	831,000円

## 商店街こそが観光資源 まち学校原町一番街本校開校 先人を生かした中心商店街の全国発信から観光客誘致に向けて

### 取組に至る背景・事業の目的

うえだ原町一番街商店会は、歴史文化や地域の特性に光を当てた商店街の誘客を推進してきた。2016年放送のNHK大河ドラマ「真田丸」以降全国区になった上田城の集客を中心商店街に呼び込むための活動として、R4及びR5年度に元気づくり支援金を活用して、様々な活動を実施してきた。

R6年度は、これまで継続してきた取り組みの集大成と位置付け、地元の先人たちに焦点を当て、明治時代に中心市街地にあった「上田街学校」をモチーフに現代版の「まち学校」としてその概念を様々な世代に広め、総合学習の場としての商店街「まち学校」の開校を目指した。

究極の所「まちづくりだ、地域おこしだ、観光誘致だ」などと大上段に構えなくとも、日常の暮らしの中で自然にみんなが地域盛り上げの一員となる様に方向づける。

### 事業内容

- ① 上田の先人22名の偉業を紹介する先人カードの作成  
…カードを集めた枚数に応じて、信州大学とコラボレーションした「先人軍ティー」などを進呈した。
- ② 商店街内全店舗を回遊できる先人カードのスタンプラリークイズラリーの実施
- ③ まち学校うえだ原町一番街本校の開校（本校証の発行）
- ④ 各種まちなか先人講座・文化講座の実施
- ⑤ 商店街活動全体のまち学校化



【まち学校開校式・記念講演】

### 事業効果

各種講座に対する関心度が高く、数多くの参加があり、その勢いは地元の学校の総合学習にまでつながり子どもたちが商店街へ来ることに興味を持ってくれた。

また、商店街の活動の中に総合学習と生涯学習的な要素を入れ、その授業として各店舗や商店街スペースを利用して実施することにより、商店主を含め、まち学校という考え方が受け入れられ「まち学校の開校」という3年間の集大成となった。

事業全体を通じて、各方面の団体との繋がりを深めることができた。その一つとして、上田市教育委員会の実施する先人館事業との協働がすすみ今後への期待が高まった。また、商店会と地元学校との繋がりが深まったことで、今後も総合学習の場として活用されることが期待される。名所旧跡を見に来ることだけが観光でなく、その町に息づく人々の市政や古いもの、歴史文化を大切にしている人たちの姿勢や心を見に来ることも観光の一端を担うという考え方が、まちの人達に少しずつ浸透してきた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は、商店街を「まち学校」を基本とした商店街事業の展開に完全シフトし地域に必要となる存在を目指す。

また、消費者=生活者という捉え方を持つと共に、地域の子供たちを含めた総合学習並びに生涯学習を含めた発信基地を目指す。令和7年以降は、消費者=生活者=自己実現者=社会実現者という考え方で広げ、「みんなのしあわせまちの幸せの為に何をすべきか」という大きなテーマに取り組む。そういうことにこの地域全体で取り組んでいるという事を観光誘致、日常の活性化にどうつなげていくか模索していきたい。

【選定のポイント】中心市街地活性化や教育など多方面で成果が見られた。今後の継続的な取組はもとより、まちづくり活動の成功事例として他地域への波及も期待され、長く地域に残っていく取組であると考えられる。

団体名	商店街振興組合 うえだ原町一番街商店会	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	副理事長 畠中俊哉	事業費	3,444,775円
Eメール	hatabo2434@gmail.com	支援金額	2,755,000円

## 魅せる工場見学プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

諏訪市は、かつて「東洋のスイス」とうたわれ、古くは製糸産業、戦後は精密産業を中心に、ものづくりの伝統が息づくまちとして発展してきた。グローバルニッチトップな技術を誇る企業が複数立地している一方で、その多くが部品加工メーカーであるため、地域での知名度はそれほど高くない。そのため、小中学生においては「諏訪＝ものづくりの盛んな地」というイメージがあまりない状況にあり、将来の諏訪を担う若年層に製造業への興味を喚起するの必要を感じていた。

そこで企業が実施する工場見学に着目し、より魅力的な体験コンテンツに磨き上げることで、製造業の魅力発信の効果的な場を創出し、同時に世界に通じる仕事が諏訪の地でできるというシビックプライドを高めることを狙いとした。

### 事業内容

- 対象企業 3社
- 工場見学プログラムの磨き上げ
  - ・会社説明内容の再構築
  - ・見学ルートの整備及び説明内容の再構築
  - ・ワークショップ開発支援
- 各種ツールの制作
  - ・企業紹介マンガ
  - ・見学時における説明補足パネル
  - ・諏訪地域の工業の歴史説明動画
- 工場見学の実施
  - ・3日間 小学校5年生・中学校2年生 延べ158名受け入れ



【完成した企業紹介マンガ】

### 事業効果

- ・工場見学後に実施したアンケート調査や感想文から子どもたちへものづくりの楽しさや企業の魅力、技術の凄さについて十分伝わった事が読みとれた。
- ・参加企業にとっても、今まで気づけなかった自社の強みや魅力を棚卸しする良い機会となり、今後の企業PRに向けて大きな自信となった。また、工場見学の新たな「型」が出来たことで、今後の受け入れもスムーズになった。
- ・制作した動画や会社紹介マンガは工業を学ぶ学習教材としての評判も高く、教育現場で活用する事で子どもたちに近年薄れつつある「諏訪＝ものづくりの盛んな地」としての認識を再び持ってもらうきっかけとなった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

BtoB 向けの製造業は、一般的に身近なものではなく技術や製造工程を理解することは簡単ではない。今回は対象が小中学生であることから、いかに平易に端的にかつ印象的に説明するか、工業アドバイザーを交えながら企業側と表現方法を協議した。今回は授業の枠組みを利用したが、子どもたちが将来、諏訪のものづくりを支えたいと思えるよう、授業以外でも、ものづくりや諏訪の製造業を体感できるイベントを継続的に実施し、タッチポイントを地道に増やしていく事が重要と考える。

今後はキャリア選択を考える層を対象を移し、地元の高校生や大学生をターゲットとした工場見学の機会創出と見学プログラムの磨き上げを実施していく。

#### 【選定のポイント】

子どもたちと参加企業の双方に製造業の魅力を確認する機会となり、今後も継続的に実施することで地域一体での「ものづくり教育」の実現が期待される。

団体名	諏訪市経済部商工課	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-52-4141 (内線 433)	事業費	2,800,000円
HP	<a href="https://www.city.suwa.lg.jp">https://www.city.suwa.lg.jp</a>	支援金額	1,032,000円
メールアドレス	syoukou@city.suwa.lg.jp		

## 育てる漆器プロジェクト

### 取組に至る背景・事業の目的

塩尻市の主要地場産業の一つである「木曾漆器」においては、「産地の後継者・木曾漆器産業の伝え手育成」への対応が急務となっており、産地として注力してきた外部へのPR・発信だけではなく、異なるアプローチとして、産地内部での意識付けや愛着形成を長期的な視点で取り組む必要がある。

### 事業内容

- 『自分で“塗る”“使う”“直す”「育てる」漆塗り給食トレー事業』  
小中学生が学校給食で使用するトレーに自分で漆を塗り、毎日使って（使用後は磨いて）、傷ついてもメンテナンスの漆塗りを施し、徐々に自分の漆器として育てていく（風合いが出てくる）ことで漆・漆器に「深く触れる」日常の創出を図る。
- 『後世につなぐウルシの植樹活動』  
小中学生が毎年度ウルシの苗木の植樹を行い、その生育状況を管理・観察していくことで、前述の漆塗り給食トレー事業とともに漆や漆器に「深く触れる」学びの機会の創出と、未来の後輩が使う漆の自給を図る。



【給食トレーに漆塗りを施す様子】



【ウルシ植樹の様子】

### 事業効果

- ① 檜川小中学校と連携し、小中学生に学校給食で自分が毎日使用するトレーに自分で漆を塗る機会及びそれを毎日使用する機会を提供することで、漆器への親近感・愛着の形成を図ることができた。また、学校敷地内にウルシ畑を整備し、ウルシ苗木の植樹を実施した。次年度以降も、小中学生と植樹を実施する予定。（プロジェクト参加者数 約125名、漆植樹数 7本（3年間累計））
- ②①の活動を通じ、プロジェクトに関わる1～9年生および学校職員の皆さんに木曾漆器をより身近に感じてもらうことができた。今後、給食トレーの継続使用や植樹体験等により木曾漆器への思いがさらに深まることになれば、将来的な産地の後継者・木曾漆器産業の伝え手になりうる児童・生徒・職員の増加が期待できる。
- ② 事業PR冊子により、事業の概要、地域の紹介と産地をあげての取り組みが広く周知されることが期待される。すでに配布部数の増量を求められる等の反響もある。

### 工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- ・毎年、檜川小中学校との連携により子ども達によるウルシの植樹を行い、生育管理をしながら漆器の原料である漆にも親しんでもらう取組を進めたい。
- ・今後も、小中学校の教育カリキュラム内での「漆塗り体験」「植樹・生育管理体験」「子どもたちへ向けたプロジェクトや漆の生態に関するレクチャー」を一通り実施することになるため、本プロジェクトの木曾漆器（伝統地場産業）と地元小中学校が連携した取組やプロジェクトへの想いを広く周知し、過疎地域である檜川地区及び木曾漆器産業の持続可能性を高め、地域の活力や魅力の向上に資することを旨とする。

#### 【選定のポイント】

- ・給食用漆器トレーの制作に留まらず、漆の植樹を行い、育成、漆の採取までを計画するという一貫した取組により、児童・生徒の木曾漆器に対する理解を深め、将来的に産地の後継者や漆器産業の伝え手が増えていくことを期待したい。

<p>団体名 木曾漆器青年部          連絡先 0264-34-3888          ホームページ <a href="http://kiso.shikkikumiai.com/seinenbu/">http://kiso.shikkikumiai.com/seinenbu/</a>          メールアドレス kisoshikkisheinenbu@gmail.com</p>	<p>事業タイプ ソフト・ハード          事業費 1,627,780円          支援金額 1,288,000円</p>
---	---

## 北アルプス地域材活用発信拠点推進事業

### 取組に至る背景・事業の目的

北アルプス地域には豊かな森林資源があるものの、地域材の活用が十分に進んでおらず、住民の関心も限定的でした。また、木材の活用方法や入手先が分かりづらいという課題がありました。そこで、林業関係者・製材乾燥関係者・木材利用者・地域住民が連携しながら、木材に関する情報発信・商品開発・販売・相談対応等を行うことで、北アルプスの森林資源の有効活用を促進する。

### 事業内容

- ◆活動拠点の設立  
もりとくらショップオープン  
木工品、オリジナル商品、板材販売  
木に関する相談窓口
- ◆オリジナル商品の開発・制作
- ◆周知活動  
リーフレット（コンセプトペーパー）作成  
Web・ECサイトの開設
- ◆イベント参加  
森、道、市場 2024 / MCBF / 製材マルシェ  
ウッドコレクション 2024 / ハウドーナツでの  
出張展示・販売



【もりとくらショップ】

### 事業効果

- ◆オープンイベント 約 100 名の参加
- ◆通常オープン一日平均約 3～5 組来店
- ◆ワークショップ開催 計 3 回 約 50 名参加
- ◆作家作品 6 組出店 30 点以上販売
- ◆オリジナル商品 5 品開発 50 点以上販売
- ◆材料や木に関する相談  
プロ：3 件以上 一般：5 件以上
- ◆オリジナル商品販売により木の良さを伝え木質化、ゼロカーボンへつながる

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

周知活動や商品開発などを実施することで、エンドユーザーの関心を高めたり、購買につなげたりすることができた。また県内外のプロの方からも北アルプス材をどうやったら使えるのかなどの裾野のニーズに応じていくことが、北アルプス材の適切な木工用材活用にもつながると実感している。

今後も引き続き、長野県地域振興局や各自治体とも連携をしながら、また北アルプスエリアに関わる従事者らとのつながりをより深めていくことが、地域連携の強化につながり、また適切な森林資源の活用につながると考えている。

商品開発、SNS や EC サイトを活用したり、ふるさと返礼品、卸販売をしたりしていくことで、財源確保をしていくとともに、北アルプス材を使った取り組みを広く伝えていくことで豊かな自然環境を未来に繋げていきたい。

#### 【選定のポイント】

林業関係者、製材乾燥関係者、木材利用者と連携し、活動拠点となるショップをオープンしたことで、関係者のつながりが深まり、北アルプス材の適切な活用につながることが期待できる。

北アルプス森とつながる暮らし案内所 北安曇郡松川村 3363-861	事業タイプ	ソフト・ハード事業
	事業費	2, 7 5 9, 0 5 9 円
	支援金額	1, 0 3 1, 0 0 0 円

## 信州新町地区新たな魅力創出事業

### 取組に至る背景・事業の目的

信州新町では、約 600～400 万年前の地層からクジラの化石が発見され、昭和 54 年には県の天然記念物に指定。平成 19 年に「シンシュウセミクジラ」と命名された。また、地元出身の西沢勇氏が収集した約 6,000 点の化石が寄贈され、平成 5 年に「信州新町化石博物館」が開館した。

この地域の豊かな化石資源を活かし、観光資源の創出と地域活性化を目的に、令和 5 年 9 月には「地域発元気づくり支援金事業」の支援を受けてイベントが開催され、今年度はファミリー層に加え、Z 世代もターゲットに取り込み、観光交流人口の増加を目指す。

### 事業内容

- 化石の街としてその魅力を内外に発信し、新たな観光資源を創出するため、イベントを開催 (11 月 3 日～4 日)。
- ・恐竜登場イベント
- ・ティラノサウルスレース
- ・スカイランタン®フェスタ
- ・地区内周遊スポットツアー
- ・灯籠ウォーク



【 恐竜登場イベント 】

### 事業効果

- 恐竜コンテンツを活かし、化石や化石博物館を P R することで、観光資源として活用できることを示せた。
- イベント期間中の来訪者は、6,000 人(博物館 4,374 人、ティラノサウルスレース約 600 人、スカイランタン®フェスタ約 500 人、新町病院祭 500 人)となり、博物館来館者目標値 1,700 人を大きく上回る結果となった。また、イベント集客目標値 2,500 人も大きく上回り、観光交流人口の増に寄与する結果となった。
- 地区内のイベント(新町病院祭等)と同時開催したことにより、相乗効果が生まれ多くの集客に繋がるとともに、信州新町地区の魅力を発信することができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 2 年目のイベントも大勢の来訪者があり目標を達成し、メディアにも数多く取り上げられ、信州新町地区の P R ができた。信州新町のイベントとして定着しつつあるが、今後も内容を改善しながら、更に化石や化石博物館の魅力を発信できるよう計画していく。
- ティラノサウルスレースは、アンケート結果を参考にしながらレース内容等を検討し、引き続き多くの方に参加いただけるよう工夫する。
- 今年からボランティア部会も立ち上がり、地区内外からスタッフとして参加していただくことができた。今後も広くスタッフを募集し地域全体で取組む機運を醸成していく。

**【選定のポイント】**

来訪者数が目標の 2,500 人を大きく超える約 6,000 人に達し、顕著な成果を上げた。中高生や大学院生、PTA などが参加するボランティア部会を立ち上げ、地域全体で支える体制を構築した点は、継続性や発展性の面で高く評価できる。また、ファミリー層に加え Z 世代の参加も促進され、参加者層の拡大につながった。今後は企業協賛の仕組づくりを通じて、持続可能な運営が期待される。

団体名	パワーアップ信州新町実行委員会 (長野市)	事業タイプ	ソフト
連絡先	026-262-2200	事業費	2, 8 4 5, 7 1 6 円
メールアドレス		支援金額	2, 0 9 5, 0 0 0 円

## JR 小海線で行く車いすの旅事業

### 取組に至る背景・事業の目的

沿線地域に暮らす車いすユーザーから「小海線に乗って一度は出かけてみたい」「コロナが落ち着いてきた今も自宅に籠る生活が続いており、みんなで楽しく会える機会が欲しい」との相談を受けていたことが契機。県が推進するユニバーサルツーリズムとも合致する事業でもあったことから、以下のような目的／ゴールを掲げて取り組みました。

- ① 小海線の利用に対する物理的・心理的ハードルを下げる
- ② 佐久大学の学生も参加することで、世代を超えた取り組みとして存続させていく
- ③ 「誰もが利用しやすい鉄道」「鉄道でしかできない旅」というロールモデルにしたい
- ④ 全国の方に小海線の魅力や価値をアピールし、一般の方も乗車していただく契機にする

### 事業内容

JR 小海線を貸切り、車いすユーザーと高校生含む学生、医療従事者等が乗車し、中込駅～小淵沢駅を往復。車内でさまざまな催し（即興劇／小海線駅名ビンゴ／プレゼント製作／ラップ隊歓迎行事／誕生日サプライズ等）を行うことで、車窓を眺める従来型の観光ばかりでなく、コミュニケーションの充実をはかる企画とした。結果を受けて、「公共交通におけるバリアフリー」をテーマとしたシンポジウムを実施。

#### ■ 催行日

2025年2月1日(土) 車いすの旅 実施  
2025年2月22日(土) シンポジウム開催



【小淵沢駅での記念撮影】

### 事業効果

- ① 上限として定めていた車いすユーザー9名が一人の欠席者も出さず全員が参加。うちALS等の重度障がいのため大型の車いすで参加される方もいたが、JR(小海線統括センター)や医療従事者の心温まる協力により無事に遂行することができた。
- ② NHK や信濃毎日新聞に複数回にわたり取りあげられ、<小海線／ニュース>のGoogle検索1番目表示となるなど、多くの地域内外の方に事業を紹介することができた。
- ③ 実施後1ヶ月以上経たのちでも「私も参加したかったです。ぜひ次回お誘いください」といった問い合わせがあった。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・ 列車に乗るまでのアプローチから席割りまで、通常の旅とは異なる配慮、事前準備が多岐に渡った。
- ・ 定員が限られているなかで要望にどれだけ応えられるのか、また障がいの程度によるきめ細やかな対応は今後の課題といえる。
- ・ シンポジウム等を通じて確信を得たこととして、鉄道は障がい者に最も優しい乗り物でもあり、車内は狭いながらもバスとは比較にならず、乗客同士が移動を伴うコミュニケーションを円滑にするスペースが十分確保できること。ユニバーサルツーリズム推進のために鉄道は不可欠であることである。
- ・ 多くの反響を得たことで、事業の有効性／必要性の理解も広まり、今後は支援金をいただくことなく、協賛やクラウドファンディングなどで実施資金を確保できる見込みである。

#### 【選定のポイント】

地域の多様な関係者を巻き込んだ住民参画型の事業で、NHK 全国放送に取り上げられるなど反響が大きく、スポンサー獲得により短期間で経済的自立を達成した。

団体名	小海線とふるさとを愛する会	事業タイプ	ソフト
連絡先	contact@ilove-koumi.com	事業費	575,309円
		支援金額	300,000円

## いつまでも住み続けられる魅力ある故郷づくりプロジェクト第1弾

### 取組に至る背景・事業の目的

南木曾町与川地区は、高齢化率が非常に高く少子高齢化が深刻な地域である。町内でも特に山間部の奥地に広がる地域であり、近年は若者の都会への流出、空き家の増加により荒廃地が増え有害鳥獣による被害も増加するなど限界集落に近い状況と言える。生活においては買い物等不便なところはあるが、近年の田舎生活ブームで言えば景色、溪流、里山、田、畑といった部分で申し分のない地域である。ただ、都会の人にはそう見えても、実際に住んでいる人、特に若者にはなかなか地域の魅力を感じるところが少ない状況である。

やはり、地元で生活する人が、その地域の魅力を知り、それを味わいながら生活し、地域で生きる楽しみを作り、地域のコミュニティー活動も充実していなければ、若者の流出を防ぐことも、さらには都会から移住してくれる人を空き家などへ呼び込むこともできない。

このようなことから、子どもの頃から地域の文化や魅力に触れ、歴史を学び、新たな魅力の発見や体験を通して、若者が定住したくなる、いつか帰ってきて住みたいと思える地域の雰囲気を作り、ひいては、この地域に住みたいと移住者に選んでもらえる地域を作っていくことを目指した。

### 事業内容

過疎化が進む与川地区において、大人から子どもまで地元住民が一丸となってこの地域の魅力を磨き上げ、楽しみながら生活することで、この地における若者の定住促進を図り、移住者に選んでもらえる地域を作る。

- ・ 古道の復元作業 (2日間延べ46名参加)
- ・ 古道に架かるつり橋の改修
- ・ ベンチ作り教室 (31名参加)
- ・ 魅力探索ツアー (24名参加)



【 古道に置くベンチ作り 】

### 事業効果

- ① 地域に眠っていた古道を復元することができた。
- ② たくさんの住民に参加いただき、地域の魅力を再発見・継承してもらうことができた。  
特に古道復元作業では、3歳から90代と幅広い年代層に参加いただき、年配者がかつての集落の様子や歴史などを語る場面が見られ、地域に眠っていた魅力を後世に繋げる良い機会となった。
- ③ 町のブログ掲載や、地元新聞社の取材を通し、地域外へ情報を発信することができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

令和6年度は古道を中心とした活動を実施したが、次年度以降範囲を与川地区全域に拡大し、地域に存在する魅力スポットを磨き上げていく。

また、整備したそれぞれのエリアを一体の散策ルートとして繋げ、地域内外へ発信し多くの方に訪れていただける地域にしていきたい。この地は中山道が通っているため、中山道を訪れる外国人ハイカーにも発信していきたい。

令和7年度には魅力スポット周辺の支障木伐採と、その支障木を原木に使った子どもたちとこのこ植菌体験を、令和8年度は栽培したきのこの収穫とそれを使った料理教室を予定している。

#### 【選定のポイント】

過疎化が進む地域において、古道の復元作業やベンチづくり教室、魅力探索ツアー等が行われ、合計101名が参加した。これは当初の見込み(60名)を大きく上回り、地域住民を想定以上に巻き込むことに成功している。

また、3歳から90歳代までと幅広い年代が参加しており、特に若い年代には多世代の交流を通じ、これまでの歴史や地域の魅力を再発見する良い機会となった。

団体名	与川地域づくり協議会	事業タイプ	ソフト・ハード
連絡先	事務局 (0264-57-2001)	事業費	6,374,788円
メールアドレス	chahara-hiroyuki@town.nagiso.lg.jp	支援金額	4,780,000円

## まつもと未来マルシェ

### 取組に至る背景・事業の目的

松本の中心市街地では伝統行事として「あめ市のだるま売り」が行われてきた。地域の子供たちが自ら「だるまの仕入れ→値付け→道ゆく人への声掛け→商品アピール→販売」まで行う、この一連の流れの中で、子供たちは人とのつながり、地域とのつながり、社会への貢献を学んできた。

しかし、近年の急激な社会状況の変化は人間関係の希薄化や地域社会のコミュニティ意識の衰退などを招き、「あめ市のだるま売り」のような地域と子どもたちが深く関わる機会と貴重な経験、学びの場を少なくしている。

このような背景を踏まえ、地域の子供や学生たちが企画段階から主体的に関わり創り上げていく中心市街地賑わい創出イベント、新時代の進化版松本あめ市「まつもと未来マルシェ」を核に、子供や学生たちの目線で故郷松本の魅力や誇りを世界に発信していく地域活性化プロジェクトを実施する。

### 事業内容

○ 「松本未来マルシェ」の開催（2024年9/29、2025年2/15～28）

- ・中学生・高校生の探究授業や部活動での取り組み・成果を発信するワークショップなどのブース、地元の事業者と学生がコラボして新たな松本ブランド（名物）を開発販売するブースの設置
- ・運営スタッフも子どもたちが担当し、バルーンアートによるおもてなしや、松本の未来に関するアンケート調査の実施
- ・実施までの学生たちの取り組みや当日の様子のほか、学生や若者たちの松本に対する思いをより深く多くの市民に発信するツールとして動画チャンネルや冊子なども制作



【松本未来マルシェ】

### 事業効果

今回の事業にはスタッフ・出展者・出演者として、のべ600人を超える子どもや学生が参画し、地域の大人たちと協働して中心市街地の賑わいづくりや松本平の魅力発信に挑戦してもらうことができた。これをきっかけに自分たちで新たなまちづくりプロジェクトを立ち上げたいという学生の声や、今後もこのような事業に参画したいという学校関係者や地元の事業者の声も多く、子どもや若者を中心に新たな時代のまちづくりに世代を超え主体的に関わろうという意識と、故郷松本に対する愛着（郷土愛）を高めることができた。

また、来場者数も会場が閉店間近の松本 PARCO ということもあったが、1st ステージ（9月）と2nd ステージ（2月）合わせて延べ10,000人（目標は6,000人）を超える結果となり、松本の中心市街地に賑わいをもたらすことができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も3つのキーワード「探究・挑戦・発信」と3つのテーマ「世代を超え共に学びあうまちづくり・多様化する地域社会の新たなつながりづくり・松本平の未来を担う人づくり」のもと、学都松本に相応しいまちづくりに取り組む。

今回の事業をきっかけに新たにスタートした学生企画「まちかふえ（ワールドカフェスタイルの多世代交流イベント）」（令和7年5月実施）を軸に、地元の企業（事業者）や地域社会と子ども・学生・若者たちとをつなぐプラットフォームを構築するなど、企画の段階から子どもや学生たちが主体的に参画できる多世代協働型のまちづくり（地域貢献・地域活性化）プロジェクトを様々な規模や内容で実施する。

#### 【選定のポイント】

- ・数多くの市民、学生、地元事業者を巻きこんでのイベント企画と1万人を超える来場者数を評価した。これを機に更に発展した活動になることを期待する。

団体名	一般社団法人ONE-PARK	事業タイプ	ソフト
連絡先	090-2423-4439	事業費	3,779,640円
ホームページ	<a href="https://www.instagram.com/matsumotomiraimarche/">https://www.instagram.com/matsumotomiraimarche/</a>	支援金額	3,023,000円
メールアドレス	1043.full@gmail.com		